

韓国首都圏で鳥取県物産展を開催しました

ソウル事務所

ソウル事務所では鳥取県と協力し、2011 年 11 月から 12 月の 3 週間にわたり、「鳥取県物産展」を、韓国の有名デパートである新世界百貨店京畿店、本店、江南店で開催しました。

1 事業概要

この事業は、韓国の著名百貨店で物産展を開催することにより、鳥取県のような特産品を韓国に紹介し県産品の消費拡大の足掛かりとするとともに、物産展における観光 DVD の放映やパンフレットの配布などの PR を通して、韓国での鳥取県の知名度のアップを図ることを目的としたものです。鳥取県から 10 社が参加し、以下の商品を取り扱いました。

だんご、もなか、いか天・げそ天、カレー、ワッフル・チーズケーキ、コーヒー、こんにゃく、ベにすわい肉、らっきょう、どら焼き・まんじゅう、グラタン等。

2 物産展の開催、売り場の状況

2011 年 3 月の東日本大震災の発生後、韓国首都圏で日本の食材を取り上げた物産展はこれが初めてのものでした。このため、開催にあたりひとつ大きな心配がありました。それは原発事故の影響です。この事故は韓国でも連日報道され、消費者が日本製品の安全性に敏感になっていることが予想されました。また韓国政府が日本からの食品輸入について検査を厳しくしたこともあり、開催まで予想以上に手間と時間がかかりました。

しかし、蓋を開けてみると会場は多くの人で賑わい、日本食品に対する関心の高さをうかがわせました。韓国では折からの健康指向に乗り、日本食がブームになっています。また、はっぴを身にまとった販売員たちの実演販売も行われ、売り場は活気に溢れていました。中でも韓国人の好むだんごや揚げ物は非常に売れ行きが良かったようです。

3 事前商談会

今回の物産展に先立ち、鳥取県業者との商談会を鳥取県で開きました。この商談会では韓国から買い付け業者が同行し、あらかじめリストアップした商品进行评估してもらいながら、物産展でどう取り扱うかを決めました。日本で好まれている味が必ずしも韓国で好まれるわけではありません。また、日本から韓国に製品を持ってくると運送コスト、関税等で価格が割高になってしまいます。そのため販売価格や売り方、韓国人の好む味について業者間で事前協議をすることが大切なのです。

4 これからの展開

今回出展した企業は、物産展で肌で感じた韓国市場の反応を踏まえ、韓国に適した味、販売方法、価格を調整しながら韓国内での継続販売の可能性を考えてゆくことになります。

今回の商談会では鳥取県の物産と観光を紹介しただけではなく、物産展を通して「元気な日本」をPRすることができたのではないかと思います。なお、2012年3月には「香川・愛媛物産展」を新世界百貨店で開催すべく準備中です。



実演販売の様子



賑わう会場の様子

(塚本所長補佐 秋田県派遣)

